



日刊 千葉労働新聞

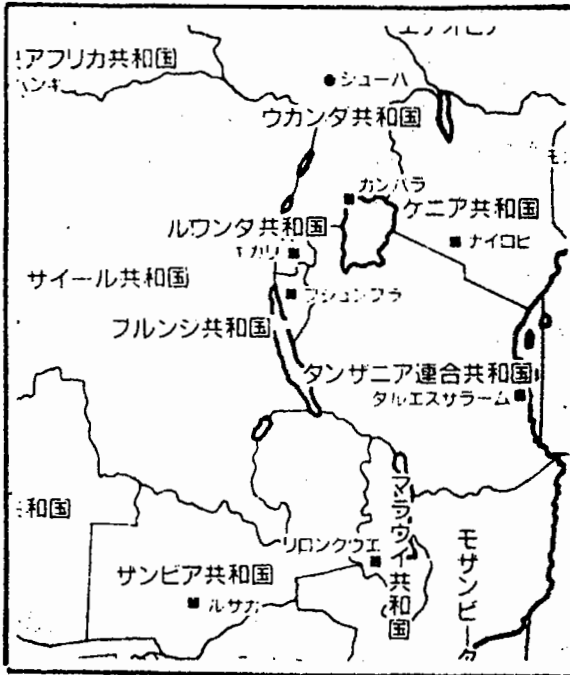
国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.9.27 No. 4068

難民救援は口実。海外派兵の恒常化狙う。自衛隊のルワンダ派兵許すな

「難民救援」は口実。海外派兵の恒常化狙う。自衛隊のルワンダ派兵許すな



自衛隊の武装派兵。なぐが、人道的、か。

村山政権は、ルワンダへの自衛隊派兵を、国会審議すら何ひとつ行わず、十三日の閣議決定で急遽決定し、十七日には空陸あわせて二十三人の先遣隊を送りこみ、これを皮切りに四八〇名の大規模な派兵を行おうとしている。

名目は「難民のための人道的なもの」としている。加えて「

したのか。マスコミの限られた報道の中からさえ、カンボジアはいっそうの危機を深めているといえるのである。

誰が、ルワンダ・サイールの破局をつくり出したのだ

ルワンダの内戦、難民の原因は、一言でいってフランスの三十年及びフツ族とツチ族にたいする民族分断支配とアメリカや国連の反動的介入にあった。

一九九〇年、ツチ族反政府ゲリラの攻勢。それに対するフツ族主体の政府に全面肩入れしたのがフランスである。以降、国連がルワンダにPKOを派遣、

外務省の大ウソとその狙い。

「外務省は、ルワンダ派遣に際して、現地の治安の悪化を印象づけないよう表現しようとしていた。」「情報が村山首相や首相官邸にも伝えられないまま

は断じて免罪できるものではない。村山政権は、こうした一切合財を不問に伏して派兵強行の暴挙を行ったのである。

このようにルワンダの危機の元凶は、フランスであり、国連・アメリカ帝国主義であることをはっきりさせなければならぬ。

このようにルワンダの危機の元凶は、フランスであり、国連・アメリカ帝国主義であることをはっきりさせなければならぬ。

このようにルワンダの危機の元凶は、フランスであり、国連・アメリカ帝国主義であることをはっきりさせなければならぬ。

このようにルワンダの危機の元凶は、フランスであり、国連・アメリカ帝国主義であることをはっきりさせなければならぬ。

このようにルワンダの危機の元凶は、フランスであり、国連・アメリカ帝国主義であることをはっきりさせなければならぬ。

このようにルワンダの危機の元凶は、フランスであり、国連・アメリカ帝国主義であることをはっきりさせなければならぬ。

十三日朝刊より抜粋
要するに、外務省は大ウソまでついで、とにかくにも「まず派兵を」に固執し、社会党の護憲派の代表といわれている岩垂寿喜男安全保障部会長は「村山政権が何もしないわけにはいかない。自衛隊を派遣すべし」とし、村山首相自らも「機関銃携行はさ末な問題」とまで言いきって、武装派兵に踏み切った。

しかも、今日ではフランス、アメリカはルワンダから撤退しているにもかかわらず、国連決議にもとづくPKO活動ですらなく「国連難民高等弁務官・緒方貞子の要請」と称して、日本が突出し、単独派兵するものである。まさに重大な問題性をはらんだ歴史的暴挙である。

こんなことを許すなら、PKO協力法だけで、朝鮮・アジアだろうと、どこでも出兵できるということになってしまおうのである。

朝鮮侵略戦争策動が「水面下で激化している中、日本支配階級は戦争のできる国家づくりを急ピッチに進めていることの一環を今回のルワンダ派兵ははつきりと示しているのである。」